



気仙沼・本吉エリアは県北東部に位置し、気仙沼市、南三陸町からなる1市1町です。太平洋に面した沿岸地域は、半島や入り江など、複雑かつ変化に富んだリアス式海岸を形成し、四季を通して豊かな天然の港です。

気仙沼市では、大島・亀山に中腹から山頂へのモノレールの設置と、山頂でお客様をソファでお迎える「亀山テラス360° Kesenuma Oshima」を令和8年夏に開業する予定です。復興のシンボルとして建設された三陸沿岸道路や大島架橋は、復興の様子を見られるだけでなく、県内におけるインバウンドへの効果も期待できるものとなります。

南三陸町は合併から20周年を迎えました。町民とともに歩んだ20年の歴史を振り返り、感謝の思いを胸に、次の未来へ向け新たな一歩を踏み出しました。

気仙沼・本吉エリア

被害状況		
地域合計	県内合計	
死者	1,840人	10,571人
行方不明者	425人	1,215人
全壊	11,626棟	83,005棟
半壊	2,749棟	155,131棟

令和5年9月30日現在

応急仮設住宅入居者数		
平成24年4月 令和2年12月		
プレハブ住宅	14,085人	0人
民間賃貸借上住宅	4,944人	0人
計	19,029人	0人

災害公営住宅整備状況	
平成31年3月末	
計画戸数	2,825戸
完了戸数	2,825戸



大島・亀山からの景観(気仙沼市)



気仙沼大島大橋と三陸沿岸道路・気仙沼湾横断橋(気仙沼市)

気仙沼・本吉エリアの定点観測

気仙沼市内湾地区(南町海岸)

気仙沼市内湾地区の「南町海岸」には、大島との間を結ぶフェリーターミナルがありましたが、津波により大きな被害を受けました。現在は防潮堤の躯体と合わせた商業観光施設もオープン様々なイベントが開催されるなど、新たな賑わいの場として市内内外の皆様が親しまれています。



被災直後



被災から15年後

気仙沼市内湾地区(魚町)

気仙沼市内湾地区の「魚町」には、地元の方々に親しまれた複数の国登録有形文化財がありましたが、津波により大きな被害を受けました。写真の建物は3階部分を残して倒壊しましたが、できる限り当時の材料で復元し、震災前の佇まいを取り戻しました。



被災直後



被災から15年後

南三陸町志津川地区

津波によって骨組みだけが残された「南三陸町旧防災対策庁舎」は、令和2年10月に開園した「南三陸町震災復興祈念公園」内にあり、震災の記憶や教訓を現在に伝えています。令和6年7月から町有化され南三陸町が管理しています。



被災直後



被災から15年後

南三陸町志津川地区

中心市街地の広範囲に津波が押し寄せ、大きな被害を受けました。令和4年10月には、道の駅「さんさん南三陸」及び南三陸町東日本大震災伝承館「南三陸311メモリアル」がグランドオープンしました。



被災直後



被災から15年後

写真提供：3.11 オモイデアーカイブ